

令和4年度コミュニティソーシャルワーク事業 実績報告書

1. 総合的福祉相談（詳細は別紙） （件）

	R4年度	R3年度
個別相談支援（延べ件数）	12,801	11,753

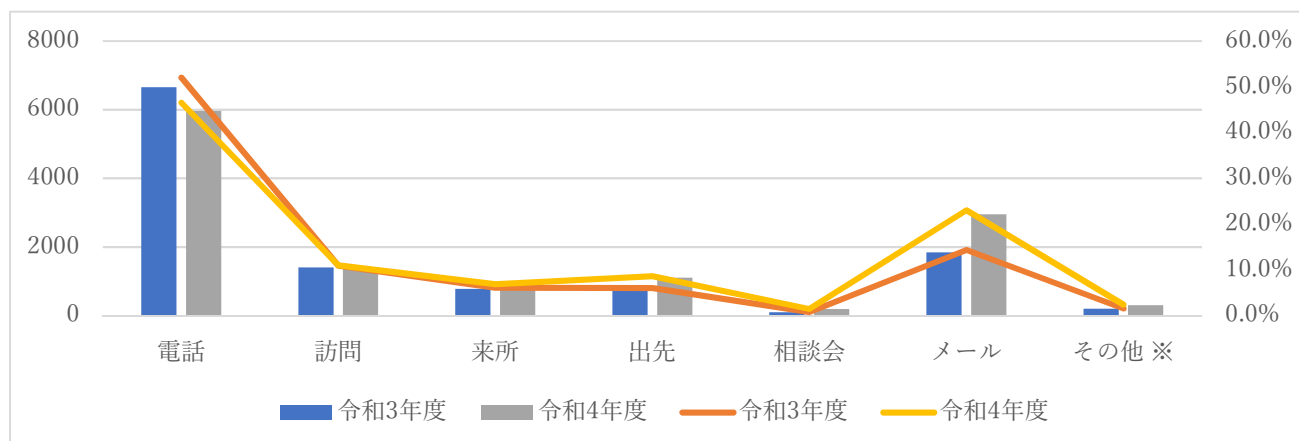
（1）個別相談支援

- ・相談件数は12,801件となり、前年度より増加している。区民の不安や困りごとに対して、感染対策を十分に行いながら、相談支援活動を実施した。
- ・「電話」と「訪問」による相談件数はあまり変化がなかった。「メール」の増加は昨年度同様に、ひきこもり状態にある本人（家族）や支援機関同士でのやり取り、地域活動に関する活動者や団体との連絡が多くなっていると考えられる。「来所」と「出先」が前年度より増加しているのは、対面での相談が増えたことが理由と考えられる。
- ・昨年に比べ「0～9歳」「10～19歳」の相談件数が増加しているのは、家族や支援機関から子の養育や障がい等に関する相談が多くなったことが考えられる。
- ・相談内容として「居場所・社会との関わり」「収入・生活費・債務」「住まい・転居・立ち退き」などが上位に来ていることから、いまま生活困窮や孤独・孤立の課題が深刻化していると考えられる。

<相談方法> （件）

	R4年度 (延べ件数)	R3年度 (延べ件数)
電 話	5,956	6,653
訪 問	1,412	1,402
来 所	884	782
出 先	1,104	777
相 談 会	190	101
メ ー ル	2,949	1,836
そ の 他 ※	306	202
合 計	12,801	11,753

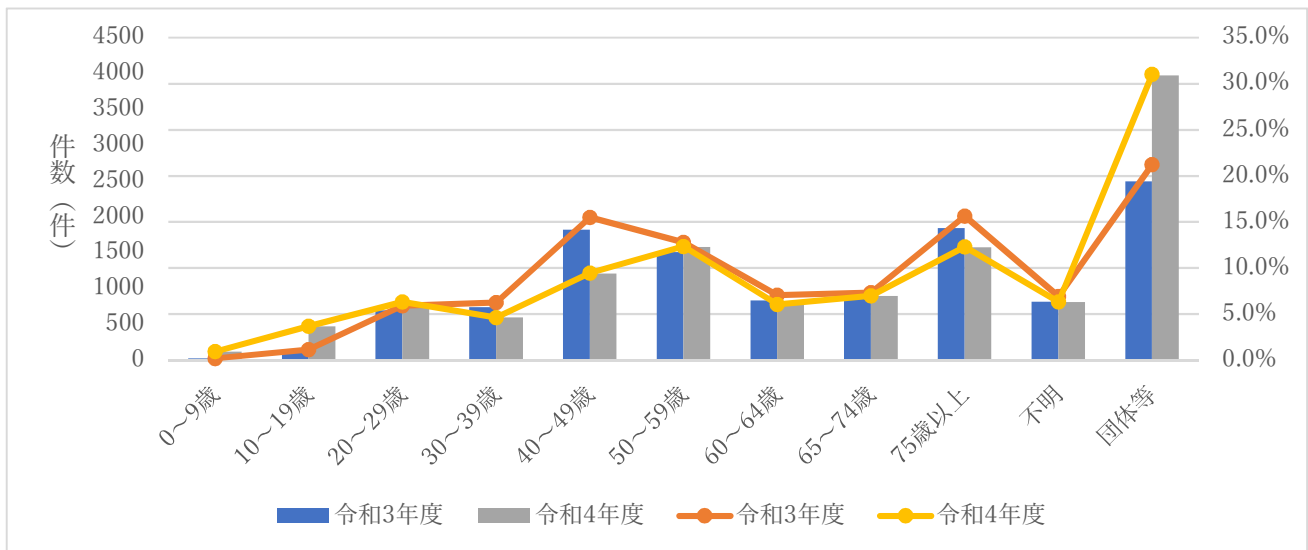
※「その他」（FAX、打合せ・会議等）



<対象者>

(件)

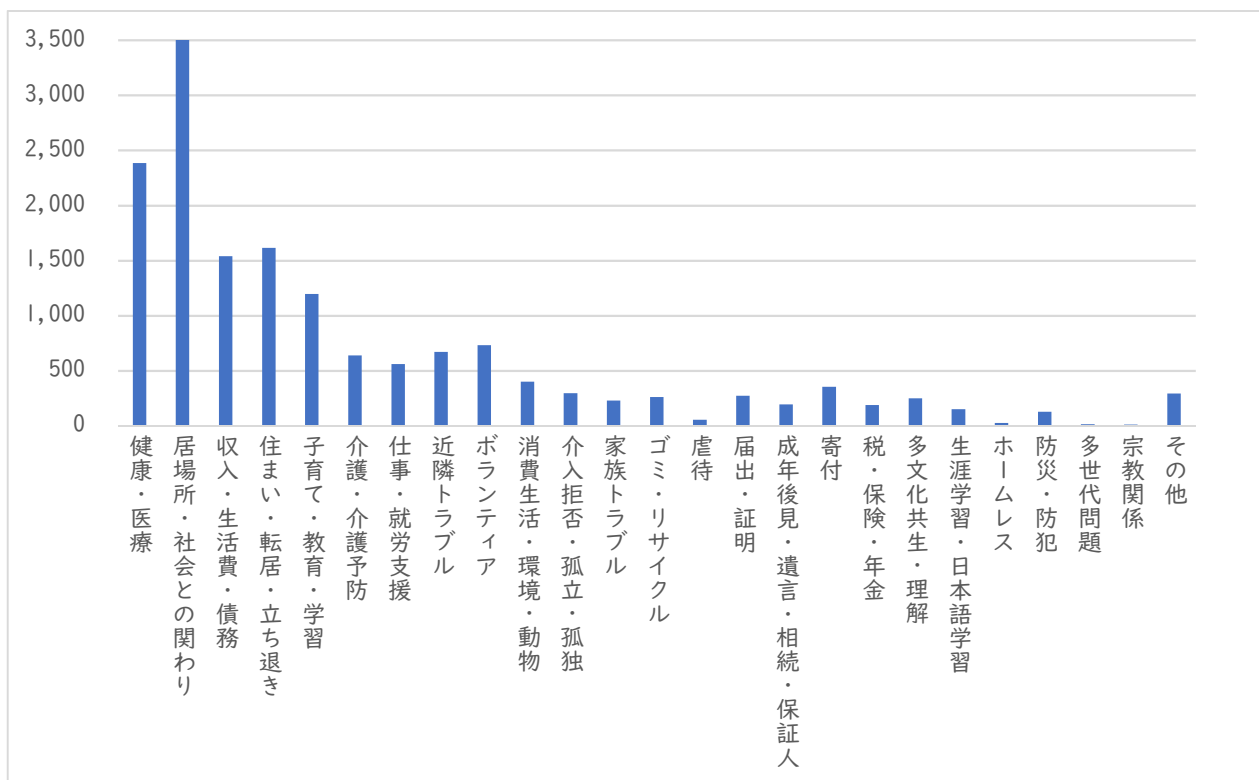
	R4年度 (延べ件数)	R3年度 (延べ件数)
0～9歳	119	23
10～19歳	471	136
20～29歳	809	694
30～39歳	594	737
40～49歳	1,209	1,821
50～59歳	1,578	1,504
60～64歳	773	830
65～74歳	896	861
75歳以上	1,573	1,840
年齢不明	808	812
団体等	3,971	2,495
合計	12,801	11,753



<相談内容> ※重複あり

(件)

内 容	件数	内 容	件数
健康・医療	2,384	虐待	55
居場所・社会との関わり	4,954	届出・証明	274
収入・生活費・債務	1,539	成年後見・遺言・相続・保証人	195
住まい・転居・立ち退き	1,614	寄付	355
子育て・教育・学習	1,197	税・保険・年金	190
介護・介護予防	641	多文化共生・理解	250
仕事・就労支援	561	生涯学習・日本語学習	153
近隣トラブル	671	ホームレス	26
ボランティア	732	防災・防犯	129
消費生活・環境・動物	402	多世代問題	16
介入拒否・孤立・孤独	298	宗教関係	13
家族トラブル	230	その他	293
ゴミ・リサイクル	261		
		合 計	17,433



(2)相談会の開催

・区民ひろば22か所のほか、都営住宅集会室、介護予防センター、コミュニティカフェ、商店街などでも開催し、昨年度よりも開催回数を増やすことができた。

	R4年度		R3年度	
	回数	相談者数	回数	相談者数
暮らしの何でも相談会	326回	226名	296回	117名

(3) 福祉何でも相談窓口地区連絡会の開催

目的	区内の 25 社会福祉法人の連携による「福祉なんでも相談窓口」事業において、窓口設置法人と 8 地区ごとに連絡会を実施。事業実施状況の確認の他、地域課題に関する情報交換などを行い、潜在的なニーズの掘り起こしや多職種・多機関のネットワークづくりを行う。
内容	「福祉何でも相談窓口」実施状況、コロナ禍での取り組みに関する情報交換 他
実績	実施回数：15 回 参加者数（延べ）：95 名（内 CSW 39 名）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域との連携が難しくなると課題共有した。感染状況も考慮しつつ、地域や住民、区民ひろば等との地域連携を検討していくことになった。 ・社会福祉法人ネットワークの多職種・多機関連携による、合同出張相談会を 2 月に開催。 ・コロナ禍での各法人・窓口の近況報告・課題などを共有することができた。 ・地域生活課題として、外国人住民への生活支援や子育てに関する文化の違い、生活ルールの周知不足などについて共有することができた。 ・出張での「福祉何でも相談窓口」の実施など、待つだけではなくアウトリーチすることについて、複数の圏域でアイデアがでた。

2. 地域支援活動／地域の実態把握／ネットワークづくり／福祉意識の醸成

- ・今年度は、ウイズコロナで地域活動を再開される活動者や団体が多かった。再開された活動に対しては、改めて活動先へ赴き、活動内容等の実態把握に努めた。
- ・小圏域における地域のプラットフォームづくりを目的とした新規事業「ぷらっと」を全 8 圏域にてスタートした。地域のさまざまな人、団体、NPO、関係機関等が出会い、自分たちの活動内容や思いなどを自由に語れる場にもなっている。新たな活動に取り組みたい区民が、地域活動を継続する活動者からアドバイスや協力を受けることもあり、地域活動の活性化を図ることもできた。

(1) サロン活動等の立ち上げ・運営支援（詳細は別紙「地域支援活動実績一覧」参照）

【支援件数】 134 件

(件)

支援内容（重複あり）	件数
立ち上げ支援	7
運営・活動支援（既存の活動）	97
運営・活動支援（新たな取組・展開）	39
福祉意識の醸成・地域に向けた発信	85
ネットワークづくりの支援	42

(2)「ぷらっと」の設置・運営

目的	地域住民や活動者、ボランティア団体、企業、NPO等、地域のさまざまな人達が出会い、つながり、学びあえる地域のプラットフォームづくりを目指す。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全8圏域で、年間6回程度の「ぷらっと」を開催する。 ・気軽に自分の活動や意見を話せて、お互いを知り、つながる場として運営する。
参加団体	地域住民、地域団体（サロン運営者、読み聞かせ等）、地域福祉サポーターなど
実績	開催回数：30回（全8圏域） 参加者数（延べ）：158名
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が、自分の活動の話を気軽に話せる場であり、参加者同士が地域活動を知るきっかけとなった。また、活動のアドバイスをし合う場にもなった。 ・参加者同士がつながり、サロン見学やサロンの場を活用した新しい企画のアイデアも生まれた。 ・参加者同士が、お互いの活動に参加したりし、交流の輪が広がっている。また、手作業を教えたりもしている。 ・既に協力・連携のある関係機関の参加が多かったが、それでも知らなかった活動や取り組み等もあったようで、あらためて地域でのお互いの活動や取り組み等を確認し合う機会にもなっている。 ・外国人の当事者が、地域団体（日本語学習、外国人支援等）とつながり、外国人との地域交流企画が生まれるきっかけとなった。 ・外国人を取り巻く地域課題について様々な立場から情報共有し、意見を交わすことができた。また、個別事例の当事者から語ってもらうことにより、解決の方向にむけての話し合いが少しではあるができた。

(3)要援護家庭等の子どもへの学習支援活動

【回数・参加者人数】

学習会名		ちゅうりっぷ	にじいろ	あおぞら	合計
開催回数（回）		5	0	18	23
参加者 延人数 （名）	子ども	25	0	165	190
	ボランティア等	60	0	112	172
	小計	85	0	277	362

【対象】

ちゅうりっぷ学習会（東部地域）・にじいろ学習会・あおぞら学習会（西部地域）

※にじいろ学習会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止。

※ちゅうりっぷ学習会は、対面開催以外に、年7回「つばめ通信」を発行し、内容によって返信ハガキも同封して、ボランティアと子ども達の関係の継続に努めた（延べ245通、返信22通）。

【連携・協力した機関等】

小学校、区民ひろば、民生児童委員協議会、地域住民、青少年育成委員会、大学、地域福祉サポーターなど

【会場】 小学校(あおぞら学習会)、区民ひろば西巣鴨第一

(4) 大正大学社会福祉学科サービスラーニング（体験教育）への協力

○テーマ サービスラーニングを通して、コミュニティソーシャルワークについて考える

目的	サービスラーニングを通して、コミュニティソーシャルワークについて考える
内容	大正大学1年生が、CSWによる講義や地域探索などを通じて、下記について学び、理解を深めることで、将来の地域福祉の担い手育成を図るとともに、区内での地域活動等へ参画を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会、CSW事業に対する学習、理解 ・区民ひろばの目的、機能の学習、理解 ・地域探索による圏域の歴史、社会資源に関する学習、理解
圏域	3圏域(いけよんの郷、アトリエ村、西部)
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・10月6日に、CSWが大正大学の授業で、地域アセスメントや街歩きの際のポイントについて、学生に講義を実施。 ・10～11月の期間にて、学生が各圏域で街歩きを実施。（全5回） ・街歩き後、各圏域のCSWが、地域の特徴（地域支援活動や区民ひろば等）について、街歩きの振り返りも含めて、学生に講義を実施。（全3回）
成果	今年も新型コロナウイルス感染症に考慮しながら、大学での講義を実施した。また、昨年度は中止となったまち歩きのプログラムを、3圏域にて実施することができた。 区民ひろば職員からも、以前のように学生に地域に出てきてほしいという声もあがっている。コロナ禍以前のように、学生が区民ひろばや区内の地域活動に参加するきっかけとして、サービスラーニングを有効に活用していきたい。

※サービスラーニングについて

1980年からアメリカで始まった教育活動の一つであり「社会活動を通して市民性を育む学習」。地域への貢献を育み、地域の結びつきを強化するもの。

(5) 「学生出前定期便」への支援（菊かおる園圏域）

目的	日常生活におけるちょっとした困りごとの手助けを行う中で、地域課題を知る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・広報チラシ作成、活動に関する打合せ、活動の周知（区民ひろば等） ・依頼を受け、学生が訪問。1回30分程度で対応可能な掃除や、荷物の移動など、高齢者の困りごとのお手伝いをする ・利用者への事後アンケート ・スマホ相談会の開催
関係機関 ・連携	大正大学、区民ひろば西巣鴨、区民ひろば清和、区民ひろば朝日、菊かおる園高齢者総合相談センター
実績	日時：【5～10月】火曜日9～12時、木曜日13～16時 【11～12月】火曜日・金曜日9～12時 活動場所：巣鴨・西巣鴨・大塚周辺地域 支援件数：67件 協力者数（延べ）：133名
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホの個別相談会を開催し、スマホ関係の依頼件数が増えた。 ・東京新聞、NHK等から取材を受け、活動の成果をPRすることができた。

(6) 学びあい・支えあいの地域活動

地域住民や民生児童委員、町会・自治会、福祉関係団体等が、小地域でネットワークを構築して、地域課題の共有や、解決に向けた取り組みを行うなど、共に学びあい・支えあう活動を展開した。

① きんぎょサロン（中央圏域）

目的	年齢・性別・国籍などに関係なく、どなたでも参加できる地域の居場所として位置づける。参加者が、特技を生かし活躍できる社会参加の場・社会貢献の場として、生きがいがづくりの一助を担う。
内容	<p>1. 例年の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロンやポーチ等の制作、使用済み切手整理(豊島ボランティアセンターを通じて地域に還元)等の手仕事を通して、サロン参加者の地域交流、社会貢献を図る。 ・随時 CSW による相談支援を行うほかに、様々な関係機関と協力し、地域ニーズに対応した取り組みの創出を行う。 <p>2. 令和4年度の主な活動</p> <p>(1) イベントなどが休止し地域との交流が減少した子どもたちへの応援企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間の企画として、「地域の人と手づくりを楽しもう！」を開催。サロン参加者提案の「紙コップに毛糸を巻いた小物づくり」を幼児、小学生等が体験。 ・冬休み期間に、子ども達へ毛糸で作成したクリスマスリースをプレゼント。 ・春休み期間に、小学生向けに、小学校で使用してもらえるように巾着袋等を作成。 <p>(2) 区民ひろば上池袋の協力で実施したバザー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民ひろば上池袋主催事業との同時開催で、ひろば上池袋前の公園を会場にきんぎょサロンのバザーを年2回(6月・12月)に実施した。6月はひろば主催事業「リユース会」との同時開催。12月は、ひろば主催事業「ジャムの販売会」と麦の家「オリジナル製品の販売会」との同時開催し、地域連携が図れたイベントとなった。 <p>(3) バリアフリーコンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催されているイベント「きんぎょサロンだよ全員集合」の代替企画として、プロのバイオリニストとピアニストを招いたコンサートを開催(定員50名満員)。 ・障害があってもなくても子どもでも大人でも楽しめるコンサートという想いを込めて「バリアフリーコンサート」という企画で実施し、当日は幼児、障害がある方、高齢の方等が多く参加した。 <p>(4) としま編んでつなぐまちアートへの参加協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンシャインシティ主催「としま編んでつなぐまちアート」のモチーフづくりに、サロン参加者も協力し、多くのモチーフを制作した。
関係機関連携	区民ひろば上池袋、NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク、豊島ボランティアセンター、高齢者総合相談センター、くらし・しごと相談支援センター、(あいおいニッセイ同和損保)
実績	日時：毎週水曜日 14時～16時 会場：区民ひろば上池袋 回数：49回 参加者数(延べ)：384名
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・バザーやコンサート等、地域に向けたイベントを開催することができた。また、ひろばと障がい事業所のさらなる交流を図ることもできた。 ・としま編んでつなぐまちアートで作成したモチーフを見に、展示されている公園へ行くことで、サロン参加者が外出するきっかけにもつながった。

② 麦の家やってみる会（中央圏域）

目的	地域住民が「麦の家」に集い、利用者・地域住民と一緒に制作した看板の補修や様々なものづくり、麦の家の作業手伝い等を行う。また、活動する中で地域住民と利用者の交流をはかり、障害のある方への理解を促すとともに、地域共生社会の実現を目指す。
内容	今年度もコロナ禍のため、例年通りの麦の家での看板製作やものづくりを行うことはできなかったが、麦の家の作品を地域のカフェ等に展示させてもらう「小さな街なか作品展」として作品展を実施。
関係機関連携	区民ひろばのカフェスペース、民間のカフェ、イートインスペース等
実績	ハートランドひだまり：11/1～（好評につき延長中） 喫茶珈門：11/11～11/30、ブックカフェ里葉：11/18～12/2（物販も実施） 区民ひろば上池袋：12/1～12/11、喫茶売店メリー：12/9～12/25 グローバルカフェ池袋：12/12～12/25、MUJIcom 東池袋：R5.2/1～2/28
成果	昨年度よりも多くのカフェ等に協力してもらい、展示の機会をもらうことができた。里葉や喫茶売店メリーでは、麦の家の作品（ポーチや小物入れ等）の販売もさせてもらった。作品の販売のないカフェ等でも、麦の家の作品の販売を案内するチラシを配架させてもらった。

（7）講演会の開催

目的	住民の福祉意識の醸成、福祉教育の推進を目的に、年3回程度の講演会を実施している。全世代、あらゆる住民への課題提起、理解をとおして地域支援活動に参加してもらうための環境づくり等を目指している。
内容	① つたえる、つたわる、やさしい日本語 ・「やさしい日本語」の基礎知識や実践事例を学ぶ。 ② 地域で生活するという事～精神障がいを知ろう～ ・精神障がいに関する基礎知識と地域で生活していくための社会資源の紹介、地域住民ができること等について理解を深める。 ③ ひきこもり～子と家族を守るマネープラン～ ・ひきこもり状態にある子を支える家族の生活とお金の守り方、親亡き後も子が生きていくためのライフプランについて学ぶ。
開催日時	① 令和4年8月 3日（水）14：00～16：00 ② 令和4年11月9日（水）14：00～16：00 ③ 令和5年2月27日（月）14：00～16：00
会場	としま区民センター701～703 会議室、他
講師	① 東京都生活文化スポーツ局都民生活部 村田 陽次氏 ② 社会福祉法人豊芯会 古俣 孝弘氏、障がい当事者 ③ 特定非営利活動法人楽の会リーラ 理事 阿部 達明 氏
参加者数	① 18名 ② 26名 ③ 15名
成果	① やさしい日本語の学びを深めてもらいつつ、多文化共生への理解も深めてもらう機会となった。

	<p>② 精神障がい基礎知識、障がい当事者の体験談を聞いてもらうことで、地域に精神障がいに対する認識を深めてもらう。</p> <p>③ 家族（親）や関係者などの参加があり、子どもへの関わり方や親子のコミュニケーションなどについて理解を深められた。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 豊島区生活支援体制整備事業との連携

(1) 地域資源（Ayamu）プロジェクトチームへの参画

目的	豊島区生活支援体制整備事業にて導入している地域資源データベースシステム「Ayamu」について、運用方法を関係機関で協議し、システムの利用を推進することにより、地域資源の有効活用を図ることを目的とする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ayamu の運用に関すること（登録する情報やカテゴリ、情報の使用承諾、ルール等） ・ Ayamu の活用状況等の情報交換 ・ 情報の定期更新
関係機関連携	高齢者総合相談センター見守り支援事業担当、豊島区高齢者福祉課、高齢者の生活支援推進員（第1層・第2層）
実績	<p>会場：としま区民センター会議室</p> <p>回数：2回</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ayamu 情報使用承諾書及び情報使用通知書を活動・サービス団体等から取得。 ・ 更新時に、活動・サービス団体等から活動内容の情報確認ができた。

(2) 高齢者の生活支援推進員（第2層生活支援 Co）との情報共有・協働

目的	令和3年度より、豊島区生活支援体制整備事業にて配置されている高齢者の生活支援推進員（第2層生活支援コーディネーター）による定例会に参加して、主に地域支援に関する情報共有、協働について協議する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの活動状況の情報共有 ・ 地域情報、担い手、地域課題などの共有 ・ 地域資源開発に向けた協議
関係機関連携	高齢者の生活支援推進員（第1層・第2層）、高齢者総合相談センター、見守り支援事業担当、豊島区高齢者福祉課
実績	<p>実施圏域：5圏域（菊かおる園・東部、中央、ふくろうの杜、西部）</p> <p>会場：区民センター、区民集会室、地域文化創造館など</p> <p>回数：菊・東部（4回）、中央（6回）、ふくろうの杜（12回）、西部（8回）</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会に出席し、生活支援推進員の活動について理解を深めることができた。 ・ 地域情報や地域課題などの共有を図ることができた。

4. 地域団体・企業等との協働による取り組み

①外国人支援プロジェクト（フードパントリー＋個別支援）への参画

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区内での特例貸付申請者の約4割が外国人世帯であったことなどから、コロナ禍で困窮する外国人家庭への支援を行うために、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が内閣府の「休眠預金等活用事業」への応募。実行団体となり、令和3年5月より事業開始。社協内では、CSW、福祉包括化推進員、地域相談支援課長、共生社会推進・事業開発課長が参画。 ・フードパントリーを実施して、来場者への聞き取りによるニーズ把握を行い、必要に応じて生活支援や法的支援を行う。
関係機関連携	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、弁護士法人東京パブリック法律事務所、認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、NPO法人Mother's Tree Japan など
開催場所	区内公共施設、寺院・神社等の集会室など
CSWの関わり	フードパントリー来場者への聞き取り（インテーク・アセスメント）、支援調整会議への参加、継続的な生活支援（手続き支援、窓口同行など）
回 数	フードパントリー：12回 支援調整会議：12回
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な相談が多い中、外国人支援のネットワークがあることで、関係者との情報共有、連携がスムーズにとれており、支援も迅速に対応できるようになっている。また、通訳などのサポートも受けることができるため、日本語がまだ話せない方への相談対応もできている。 ・区内に住む外国人世帯のニーズや地域生活課題を把握することができるようになり、関係機関で情報共有を図っている。

②食糧支援プロジェクトへの協力・相談支援

◆ライス！ナイス！プロジェクト

内 容	「『コロナに負けるな！』としま医療・福祉支援寄付金」を活用した、官民連携協働によるひとり親家庭に対する食料支援事業に協力。
主 催	豊島区、豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
開催場所	区民ひろば、区役所本庁舎など
CSWの関わり	企業からの寄付物品の仲介、提供作業時の人的協力
回 数	回数：2回 CSW 延べ参加人数：16名
成 果	対象者層（課題）の把握、プロジェクト協力者とネットワークの構築を図った。

◆としまフードサポートプロジェクト

内 容	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学校等の臨時休業、事業所の休業等により、経済的影響を受けている就学援助受給世帯(区内在住者)の負担軽減の一助となることを目的とした、食糧支援事業「としまフードサポート」に協力。また、課題把握や相談支援を行う（アウトリーチ）。
主 催	豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク
開催場所	区役所本庁舎、区民ひろばなど
CSW の関わり	運営に伴う物資の運搬、提供作業時の人的協力、支援制度の資料作成及び配布、相談対応
回 数	10 回 CSW 延べ参加人数 70 名
成 果	プロジェクト協力者とネットワークの構築を図るとともに、個別に相談対応を行うことができた。

③企業との協働

◆子ども服マーケット

目 的	サンシャインシティでは子ども服の回収 BOX を館内に設置し、フードサポート等の機会を活用し、必要とする家庭へお渡しする取組を行っていたが、子ども服の引き渡し自体をイベント化し、服を選ぶ楽しさ（コト体験）、地域ボランティアとのコミュニケーション（多世代交流）としての価値提供を目指す。また、公民連携によるイベントの企画・運営を行い、地域連携のロールモデルの一つになることを目指す。
内 容	①子ども服の無償提供 ②コト体験の提供（賑わい・お楽しみイベント） ③多世代交流の創出
主 催	サンシャインシティ、豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク、
関係機関 連携	大和証券社、良品計画社、早稲田大学ボランティアセンター、豊島区
CSW の関 わり	子ども服の仕分け作業および当日の運営ボランティアの仲介、 提供作業時の人的協力、
実 績	・ボランティアの参加数（延べ）事前準備（仕分け）：78 名／当日運営：13 名 ・来場者数 98 世帯（220 名） ・子ども服等の提供数：1,053 個
成 果	・民生委員等の地域ボランティアが、事前準備の仕分け作業と当日の運営に協力してもらえた。公民と地域の連携につながるモデルの一つとなった。

5. コロナ禍における取組み

新型コロナウイルス感染症自宅療養者に向けた食糧等支援

新型コロナウイルスに感染または疑いにより、自宅療養を余儀なくされていて物資の調達が困難であった方へ、東京都の自宅療養者フォローアップセンターから物資が届くまでの間、食料品と日用品の配付支援を行った。(物資は豊島区が用意)

【支援開始日】令和3年8月25日～

【支援世帯数】1,097世帯

【配付数】1,062セット

6. 広報（事業認知度の向上及び活動の周知）

(1) CSW 通信の発行

【発行回数】各圏域月1回（計96部）

【成果】

- ・各圏域において、定期的にCSW通信を発行、配布することにより、CSWの認知度向上を図ることができた。
- ・配付・配架先を開拓することにより、CSWへの理解を促進するとともに、ネットワーク構築を行うことができた。
- ・地域アセスメントによる情報を、紙面に掲載（地域活動の紹介など）することにより、地域活動支援や地域住民の福祉意識の醸成を図ることができた。

(2) 「このまちでみんなと生きてゆく

～ひろがっています！多文化共生の輪～」の作成・発行

豊島区内の多文化共生にかかわる様々な取り組みや活動を冊子にまとめて、地域住民、民生・児童委員、各関係機関等に幅広く情報を発信することで、現状の周知や課題提起をするとともに、活動者のエンパワメントにもつなげている。

【発行】令和5年2月

【発行部数】1,000部

【配布先】CSW窓口、社協窓口など



7. 人材育成・スーパービジョン体制の充実

コミュニティソーシャルワーク実践の質の向上を図るために、職員間で実践上の課題共有や、解決策の検討などを行った。また、必要な知識等を得るために、内部研修を企画・実施した。

(1) 会議体等の実施

CSW 会議：12 回

事例検討会議：12 回

(2) 内部研修会の企画・実施

テーマ：CSW 外国人支援スキルアップ研修 ～在留資格編～

目的：困りごとを抱える外国人住民への支援で必要となる、在留資格の基礎を習得すること、支援力の向上を目的とした職員向け研修を実施する。

開催日：令和 5 年 1 月 31 日（火）

会場：としま区民センター4 階会議室 402

講師：アオヤギ行政書士事務所 青柳 りつ子氏